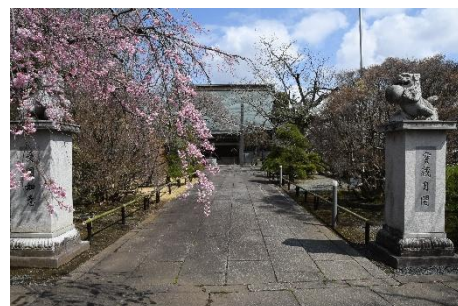


知 恩 第38号

目 次		
I	定時総会開催	2ページ
II	講演会の開催	6 //
III	資料提供の依頼	7 //
IV	詐欺メールに注意	7 //
V	定時総会資料	8 //



恩光無辺の碑



祇園寺の桜はほぼ満開

令和8年3月28日(土)、水戸市八幡町の壽昌山祇園寺において、水戸殉難者恩光碑保存会(大森信明会長)の定時総会が、開催されました。

総会では、令和7年度の事業実施結果及び決算報告と、令和8年度の事業計画及び予算とが審議されました。

また、本会の前会長である川上有文様につきましては、今年1月にご逝去されました。大森会長から川上様のご功績について報告があり、ご冥福をお祈りいたしました。

総会の概要は2ページから、総会資料は、8ページからご覧ください。

I 令和8年度定時総会 開催

定時総会は、会員及び来賓の方々約40人のご参加をいただき、午後1時から開催されました。



定時総会参加会員、ご来賓の皆様、大森会長



会長あいさつ

大森会長による開会のあいさつ
その後、水戸市の高橋靖市長
からご挨拶をいただきました。
(市長のメッセージは以下のブ
ログからご覧になれます。)

[令和7年度水戸殉難者恩光碑保存会総会](#)
[高橋やすしオフィシャルブログ「水戸市長の安心
水戸ふるさと日記」Powered by Ameba](#)

続いて、後藤通子水戸市議会
議員、渡邊欽也水戸市議会
議員からご挨拶をいただきました。



高橋靖水戸市長あいさつ

次に、茨城県近現代史研究会
名誉会長 市村真一先生 及び
「幕末維新水戸有志を偲ぶ会」
(栗原邦俊会長)の唐笠實事務
局長をはじめとするご来賓の皆
様方をご紹介させていただき、議
事に入りました。



後藤通子水戸市議会議員



渡辺欽也水戸市議会議員



茨城県近現代史研究会 市村真一名誉会長



幕末維新水戸有志を偲ぶ会
唐笠實事務局長



ご出席いただいた
来賓の皆様



司会・進行



会場の様子

○ 議事

大森会長から、

1. 水戸殉難者恩光碑保存会 川上前会長ご逝去の件
2. 1号議案「2025年度活動報告、会計報告、会計監査報告」
2号議案「2026年度の行事計画、予算案、寄付金について」
等について、報告及び説明がありました。
概要は以下のとおりです。詳しくは総会資料をご覧ください。

1. 水戸殉難者恩光碑保存会 川上前会長のご逝去の件

本会前会長の川上有文様が、2026年1月7日にご逝去されました。川上様は2006年の本会発足にあたり事務局長に、そして2011年4月から2018年4月までは会長として、諸生党戦没者の慰霊・復権、水戸市との関係構築、水戸藩士殉難150年記念事業の実施等に向けご尽力されました。ご冥福を心よりお祈りいたします。

川上前会長のアルバム



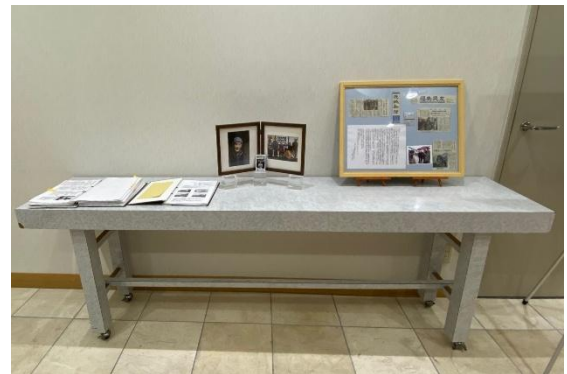
2011(平成23)年
会長就任の年



2017(平成29)年
9月



2018(平成30)年3月
会長ご勇退



令和8年1月11日の葬儀で設けられたメモリアルコーナーでは、会長時代に実施された慰霊行事での「追悼の辞」の原稿や新聞記事、会報「知恩」などが展示され、思い出をたどることができました。

2. 1号議案「2025年度活動報告、会計報告、会計監査報告」

1) 2025年度活動報告

- ① 総会を2025年3月25日(土)に実施。
市村眞一先生ご講演「9代藩主斉昭の陰謀」

② 水戸近郊の史跡巡りを6月14日(土)に実施

赤沼獄舎跡、酒門共有墓地、長岡原刑場跡、願入寺、神応寺、常磐共有墓地、回天神社、祇園寺を巡る。回天神社にて代表役員の羽賀様と対話

③ 東臯忌(祇園寺ご開祖様命日の法要) 9月30日(火)に役員が参列

④ 新潟視察を6月28日～29日に実施(会長及び会員 計2名)

2026年訪問計画準備のため、灰爪の史跡を参拝し灰爪自治会と打ち合わせ。近隣施設等の調査。

⑤ 会報「知恩」第36号、第37号の発行



続いて事務局から、

2) 2025(令和7)年度決算報告 がなされました。

2025年度収入	1,251,433円
同 支出	504,547円
次年度繰越金	746,886円



監事からは、

3) 2025(令和7)年度監査報告 として
帳票・書面等監査の結果、適正である旨、
報告されました。

1号議案について採決したところ、全会一致をもって承認されました。

2号議案「2026年度の行事計画、予算案、寄付金について」

1) 2026年度・行事計画

① 総会の実施(2026年3月28日(土))

市村眞一先生ご講演

② 会報「知恩」の発行(春・秋予定)

③ 新潟北越戦争慰霊研修旅行(5月15日～16日)

新規訪問先を加え、諸生党の新潟での足跡をたどりながら、ゆかりの地を訪問するとともに、灰爪での慰霊式・灰爪自治会との交流を予定。

④ 東臯忌参列 9月30日 会長及び役員の方の参列を予定

2) 2026(令和8)年度予算案

続く2026(令和8)年度予算案については、活動計画に基づき実施する慰霊研修旅行等に伴う事業費を計上する旨の提案がなされました。

3) 灰爪寄付の状況、および今後の寄付について

2018年より開始した灰爪の史跡の維持管理目的の寄付金は、2026年までに73万円超(繰越金)と、当面の資金は集まったことから

- ① 灰爪目的の寄付募集は2026年で終了とし、2027年からは恩光碑保存会活動全般を目的とした寄付を募る。
- ② 2026年までにいただいた寄付金(繰越金)は、当初の目的どおり灰爪目的(灰爪自治会寄付、灰爪を含む北越戦争慰霊行事関連、灰爪史跡の補修等)の資金とする。

以上、2号議案について採決したところ、全会一致をもって可決されました。

総会資料を8～11ページに掲載しておりますので、ご確認ください。

II 市村眞一先生講演

○議事終了後、市村眞一先生

(茨城県近現代史研究会名誉会長)から「茨城県で唯一、現役の陸軍大將になった男～菊池慎之助の生涯～」のご講演がありました。

今回は以前(令和6年)のご講演「茨城県出身の唯一の現役陸軍大將は諸生派」以降、さらに深掘りした研究成果について、写真等の新資料を加えてご紹介いただきました。



茨城県近現代史研究会
名誉会長 市村眞一先生

講演の資料等は12～16ページをご覧ください。

Ⅲ 茨城県立歴史館から資料提供のお願い

○県立歴史館では、令和9年度の特別展「女たちの幕末維新」に向けた準備の一環で、諸生党関係者の手元に保管されている資料や、語り継がれている記憶についての情報を収集しているとのことです。

心当たりのある方、詳細についてのお問い合わせは、県立歴史館史料学芸部学芸課の長谷川主席研究員までお願いいたします。



茨城県立歴史館学芸課
長谷川良子主席研究員

資料提供依頼の文書及びこの件についての連絡先等は、17ページをご覧ください。

Ⅳ 恩光碑保存会サイト運営会社を名乗る詐欺メールにご注意！

○会員の皆様あてに、恩光碑のサイト運営会社を名乗り、「サイト使用料」や「ドメイン使用料」の支払いを求めるなどのメールが届くことがあります。 (「info (a) (アットマーク) onkouhi.site」のメールなど)

会員の皆様個人あてに本サイトの支払い請求が届くことはありません。これらは詐欺メールで、危険ですので、開封したり返信したりせず、削除してください。

V 総会資料

2026年度 水戸殉難者恩光碑保存会 総会資料

2026.3.28 会長 大森信明

1. 川上前会長・ご逝去の件

水戸殉難者恩光碑保存会・前会長、川上有文様が2026.1.7にご逝去されました。川上前会長は当会の発足（2006.10）にご尽力され、発足時より事務局長、2011.4 から2018.4 までは会長として、諸生党戦没者の慰霊および復権にご尽力されました。川上前会長の功績で特筆されることに、水戸市との関係構築があります。故・高橋丈夫議員を顧問に迎え、2009年の水戸市議会に置いて、水戸市教育委員会より諸生党・天狗党に偏りなく史実を忠実に伝えるとの答弁を得、以後当会は水戸市との関係を構築することができ、本日高橋市長にお越しくございました。また会報の発行、慰霊行事を絶えることなく実施され、千葉県匝瑳市関係者、柏崎市灰爪関係者、会津史談会、水戸幕末維新有志を偲ぶ会等の関連する団体との関係構築にもご尽力されました。2018年には強いご意思により、水戸藩士殉難150年記念事業を実現し、関連史跡での慰霊法要、記念誌発行、茨大名誉教授・鈴木暎一先生による記念講演を実施することができました。川上前会長の功績に、心より感謝いたします。川上前会長はご退任の際、灰爪の史跡の管理を大変ご心配されておりました。灰爪の史跡は、管理者がいなくなり、踏み入ることのできない荒地になる懸念があったらです。私は川上前会長から対応を引き継ぎ検討した結果、4年前灰爪自治会と維持管理を合意し、体制を確立することができました。川上前会長もご安心されたことと思います。ご冥福を心よりお祈りいたします。

2. 1号議案：2025年度活動報告、会計報告、会計監査報告

1) 2025年度活動報告

①総会 2025.3.25（土）実施。

市村眞一先生講演「9代藩主斉昭の陰謀」

②水戸近郊の史跡巡り

2025.6.14（土）、赤沼獄舎跡、酒門共有墓地、長岡原刑場跡（市川三左衛門処刑の地）、願入時（諸生党決起の地）、神応寺（慷慨淋漓の碑・拓本拝見）、常磐共有墓地、回天神社、祇園寺を巡った。回天神社では、代表役員の羽賀様が私共を出迎えてくださり、初めて当会と回天神社で対話をする事ができた。幕末維新における水戸の総括に向け、引き続き活動していきたい。

③東阜忌（祇園寺ご開祖様命日の法要）参列 2025.9.30

当会より、会長、大森信樹副会長、門井役員の3名参列

④新潟視察 2025.6.28～29

2026年の旅行立案のため、会長、大森信宏会員で、灰爪の史跡を訪問参拝し灰爪自治会と2026年の新潟訪問について打ち合わせ。北信戊辰戦争の古戦場、展示館を視察。

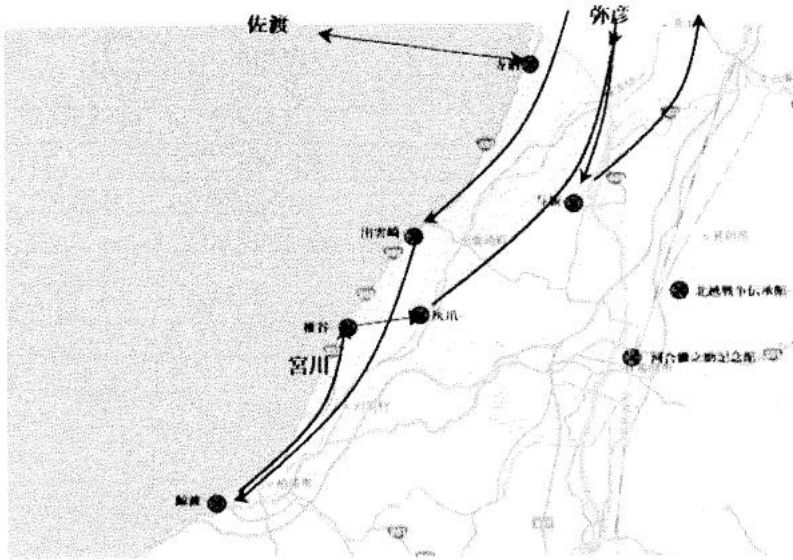
⑤会報発行：2回（第36号：2025.5.10発行、第37号：2025.9.14発行）

2. 2号議案：2026年度の行事計画、予算案、寄付金について

1) 2026年度・行事計画

- ①総会 (2026. 3. 28)
- ②会報発行：2回 (春、秋)
- ③新潟北越戦争慰霊研修旅行 (5/15～16)

年表 (1868年)



日	内容
4月24日	東京・本館 出発
4月25日～27日	豊前大光寺 北越戦争 奉安堂開堂の成立
4月27日	松崎 建立堂の開堂
4月28日	榎谷・富田 義兵墓 榎谷25人 富田11人 榎谷村 義兵伝承館 榎谷立
4月29日	出雲崎
4月30日	出雲崎 榎谷 榎谷義兵伝承館 榎谷25人 富田11人 榎谷村 義兵伝承館
5月1日	出雲崎 榎谷
5月2日	与板陣屋跡 榎谷 15人
5月3日	高尾山陣屋跡 榎谷 15人
5月4日	榎谷 与板陣屋跡
5月5日	出雲崎・新出雲崎 与板陣屋跡
5月6日	榎谷
5月7日	本館

新規訪問先（下線）を加え、諸生党の新潟での足跡をたどりながら、北越戦争全体を学べるよう計画した。灰爪の史跡の他、諸生党にゆかりの鯨波古戦場跡、榎谷陣屋跡、出雲崎代官所跡、与板陣屋跡、寺泊法福寺・家老・佐藤図書の墓、北越戦争伝承館（北越戦争の全体像を学べる）の訪問を予定。寺泊魚市場にも立ち寄る（1日目）。2日目灰爪での慰霊式の後、灰爪自治会との交流会を予定。

- ・日時：5/15（金）～5/16（土）
- ・交通手段：水戸市の市バスを利用（水戸市役所集合・解散）
- ・宿泊先：長岡グランドホテル（シングル or ツイン）
- ・参加費：20,000円
- ・参加申し込み方法：4月上旬発送の参加申し込みハガキにて申し込み。4月28日締め切り。参加者には、5月上旬の会報発行時、旅行日程詳細および参加費振込み用紙を同封する。

④東皐忌参列（祇園寺ご開祖様命日の法要、9月30日）

- ・諸生党とご縁のある、祇園寺のご開祖様、東皐心越禅師のご命日の法要（毎年9月30日）に保存会として参列する（会長および水戸在住の役員を予定）。

2) 2026年度・予算案

収支予算

2026/1/1～2026/12/31

単位・円

収入の部				支出の部			
科目	金額	内訳	摘要	科目	金額	内訳	摘要
前期繰越	746,886			總會費	10,000		總會会場費用
年度会費	126,000	63名/63名回収率100%		慰霊旅行費	500,000		バス会社予算365,250円
慰霊旅行費	500,000	25人×20,000円		会議費	10,000		
				雑費	10,000		
				事務費	18,000		
				渉外費	40,000		
				資料費	13,000		
				通信費	60,000		
				灰爪寄付金	60,000		
				予備費	651,886		
合計	1,372,886			合計	1,372,886		

3) 灰爪寄付の状況、および今後の寄付について

- ・灰爪の寄付は、灰爪の史跡の維持管理を継続的に行うこと目的として、2018年より開始した。集計の結果、次年度繰越金¥746,886中、¥736,790円が灰爪の寄付の繰り越し金と判明。一方、一般会計に繰り越し金が殆どないことが分かった。灰爪支援の資金は十分集まったこと、保存会の運営が厳しい状況であることから、2026年度より次を提案する。

- ① 灰爪目的の寄付は2026年で終了とし、2027年からは恩光碑保存会活動全般を目的とした寄付を募る。
- ② 2026年度までに寄付していただいた灰爪寄付の繰り越し金は、灰爪目的（灰爪自治会寄付、灰爪を含む北越戦争慰霊行事（旅行・調査費を含む）、灰爪史跡の補修等）の資金とする。

『茨城県で唯一、現役の陸軍大将になった男～菊池慎之助の生涯～』レジュメ

市村眞一

1) 茨城県出身の大將は3人

茨城県出身の軍人で大將まで昇りつめた人物は陸海軍で計3人。陸軍は関東大震災の直前の大正12年8月に就任した水戸市出身の菊池慎之助と昭和15年に南京から漢口に向かう途中、飛行機事故で殉職し、没後大將となった古河市出身の塚田攻。海軍は第一艦隊司令長官の昭和18年に就任した稲敷市出身の高須四郎。

2) 一家で福島に

市川勢を追討した天狗党は、穏健な諸生派も殺害し始める。市川勢に同行しなかった穏健な諸生派は、慌てて水戸を離れる。そのなかに戸田道守親子4人がいた。市川勢に遅れること2か月、慶応4年5月に戸田一家は水戸を離れ、会津に向かう。しかし、妻鳴井まつ、2歳の長男慎之介、1歳の長女カネを連れての逃避行は難渋を極め、荒井村（現福島市）にたどりつくのがやっとだった。農家に匿われるが「みんなぼろをまとい、乞食同然だった」という話が地元には伝わっている。荒井村に恩義を感じた道守と妻は、明治になり荒井小学校の教員となり、恩義に報いると同時に人並みの生活ができるようになる。

3) 荒井村の生活

道守は、その後荒井村小学校の校長となり、妻も教員を続けるが、明治14年に37歳で病没。教え子たち12人が墓を建て、墓石に自分たちの名を刻んだ。彼女が教えた子供たちに慕われていたことが伺える。一方、明治12年、13歳になった慎之介は隣村の佐倉小学校に代用教員として採用される。しかし、給料は安く、将来性もないと思ったのか1年ほどで退職。陸軍入りを目指して上京。母親が亡くなるのは、そのあとのことだ。

この間、両親の間にはフジ、トウと名づけられた女兒が誕生。明治19年、道守は荒井小学校の校長を辞め、なぜか慎之介が務めた佐倉小学校で2年間ほど教員を務めたあと、荒井村を去り、古里の水戸に向かう。地元には「水戸に帰ったあと、なぜか水海道（常総市）で行倒れとなり、亡くなった」という話が伝わっている。3姉妹は、やがて地元の有力者にそれぞれ嫁いでいる。

3) 陸軍に仕官した慎之介

上京した慎之介は、約3年間の雌伏を経て明治16年、陸軍教導団歩兵大隊に入隊。陸軍教導団は陸軍諸兵の下士を養成する機関。ここで一等軍曹を経て明治19年、慎之介は陸軍士官学校に入学する。3年後、卒業して歩兵少尉に任官し、近衛第3連隊に配属される。さらに2年後には歩兵戦術や部隊の教官・生徒を育成する戸山学校を卒業している。慎之介は、士官学校入学時から陸軍のエリートコースに乗ったといえる。

明治25年に士官学校11期歩兵科を152人中18位で卒業。上位者しか入れない陸軍大学に入学した。

明治27年、歩兵中尉に任官されるが、折からの日清戦争のため陸軍大学を中退し、翌28年4月には中国に出征。遼東から台湾と転戦、この間、歩兵大尉に昇進し、近衛歩兵第

3 中隊長となる。同年 11 月帰国し、明治 29 年 2 月に陸軍大学に復学。明治 30 年 12 月、同大学を 14 人中 7 位で卒業。参謀本部に出仕、明治 34 年 4 月に歩兵少佐に昇進し、2 年後にドイツ、ロシアに駐在して軍事研究を命じられる。ただ、日露の状況が悪くなり、1 年で帰国。同 37 年、歩兵中佐となり、日露戦争では第 4 軍管理部長から第 4 軍副官に補されて出征。遼陽会戦、紗河の戦闘などに参戦し、第 4 軍参謀となる。奉天会戦後に復員して陸軍省の寺内正毅陸相副官となる。明治 39 年 6 月、再び欧州に戻り、ドイツ、ロシアで軍事研究を 1 年弱行う。帰国して参謀本部付きとなり、陸軍大佐となると第 16 師団参謀長を 2 年間勤め、陸士生徒隊長に転じる。

4) 戸田慎之介から菊池慎之助に

この間、明治 24 年 11 月、菊池信子との養子縁組の話がまとまり、慎之介は従兄で判事の戸田忠正（忠則の長男）の従弟養子となったうえで信子の養子に入籍。なぜ、わざわざ忠正の養子となって信子の養子に入籍する複雑な手続きを踏んだのかわからない。考えられるのは、忠正や信子の父親芳野昇太郎（菊池右仲から改名）、信子の夫信親も判事という共通点があることだ。お互い判事同士で知り合いだった可能性もあり、それが縁で慎之介は菊池家の養子になったと推測できよう。慎之介は明治 25 年 2 月に信子の 2 女房子と結婚し、菊池姓に変える。大正 2 年に慎之助と改名する。これまで紹介したように、慎之介の父親は、水戸藩の保守派（諸生派）だ。一方、芳野昇太郎はもともと菊池右仲を名乗る水戸藩の改革派で、水戸八幡宮の宮司から神官隊の一員として鯉沼伊織（のちの香川敬三）らと京の本圀寺勢に参加したが、飽き足らず菊池と鯉沼は離脱して土佐の陸援隊に加わった経緯がある。保守派とは犬猿の仲だった。にもかかわらず娘の養子に保守派出身の戸田慎之介を選び、孫娘を慎之介と結婚させたのは、それぞれの縁者が判事という共通性で理解しあい、しかも各人が水戸に在住していなかった点も影響していると思推定できる。

というのは、現在でも改革派（主に天狗党・本圀寺勢）と保守派（諸生派・市川勢）のご子孫の遺族会は和解していないからだ。元治元年（1864）の天狗諸生の戦いから 150 年を経た平成 26 年（2014）に双方に和解を勧めたことがある。双方の返事は「それぞれの先祖を供養すればよいと思う。和解は考えられない」と同じだった。したがって、改革派と保守派の子孫が結婚することは、水戸では難しい状況が続いていると思うからだ。

5) 陸軍大将への道

大正 2 年、陸軍少将に任官した慎之介は慎之助に改名。歩兵第 5 旅団長に。同 5 年、参謀本部総務部長となり、翌年に中将、教育総監部本部長、第 3 師団長、参謀次長を歴任。同 11 年、朝鮮軍司令官となる（写真 1, 2, 3）。大正デモクラシーのなか、軍部に対する世間の風当たりが強まる中、司令官の慎之助は 12 年 8 月 6 日、皇族 2 人とともに陸軍大将に昇進する。同 13 年 8 月、軍事参議官兼東京警備司令官に転じ、前年の関東大震災で治安悪化した東京の警備に尽力する。また、大正 15 年 3 月から病没する昭和 2 年 8 月まで教育総監兼軍事参議官を務めた。

6) 遺族が保管する菊池家の写真

慎之助は大正14年10月19日～22日に陸軍大演習が仙台郊外で行われた際、視察に行く。その帰路、26日に福島市に立ち寄っている。そして、大原一氏の別荘落成式に招かれた(写真4)。写真の裏には「福島の親戚を訪ね」(写真5)と記している。福島市には3人の妹たちがいた。このとき慎之助と妹たちは再会したのだろうか。そして、極貧時代のことや両親のことを語り合ったのだろうか。フジの3男主計は、東北帝国大学医学部を卒業し、福島市で開業していた医師鈴木一衛の娘千恵子と結婚、婿養子となり鈴木主計となり、その後、大原総合病院(大原一院長)の副院長となり、大原の片腕となり、同病院を支えた。従って慎之助は大原一の別荘落成に招かれた際、甥の主計が働いていることを知っていた可能性がある。あるいは、大原が慎之助と主計の血縁関係を知って招待した可能性もある。菊池家の遺品のなかに慎之助が眠る東京・青山霊園での納骨式(写真6)、葬儀に飾った遺影(写真7)、宗派は神道なので位牌でなく霊璽(写真8、9)が残されている。

7) 父を慕っていた慎之助

慎之助は若くして福島市を離れ、陸軍生活に入り、しばらくは外出できなかった。従って父が水海道で行倒れになり亡くなったことは、あとで知った可能性が高い。それでも自分の墓を建てる際、家族に菊池家の関係者の名前を側面に彫るよう指示したとき、一番先に父の名「戸田道守」と彫らせた。それだけ父を慕っていたのだろう。大きな墓の正面には「陸軍大将 菊池慎之助墓」。青山霊園には芳野昇太郎の小さな「芳野家之墓」も。

慎之助の生涯を辿ってきたが、彼が陸軍大将まで昇進した背景には、もちろん本人の努力と実力があつたことはいふまでもないが、幼少時の苦勞への反発があつたように思える。苦勞しなければならなかつたのは、父親が水戸藩諸生派ゆえに時代に賊軍扱いされたことがあつたと思う。彼は、時代の不条理を感じ、それに反発し、それをエネルギーに変えて薩長閥が支配的な陸軍のなかでさまざまな困難に耐え、乗り越えて大将まで昇進したように思える。

参考文献

- 歴代陸軍大将全覽 大正編 中公新書 2009年発行
- 帝国陸軍 高杉洋平著 中公新書 2025年発行
- 水戸市史中巻四、五
- 市川勢の軌跡 市村眞一著 茨城新聞社 2008年発行
- 大原記念財団沿革
- 水府系纂・戸田忠敞

写真提供

菊池慎之助関係は菊池哲氏

協力

- 千葉県在住の菊池哲氏
- 東京・青山霊園管理事務所
- 福島県在住の渡邊智英氏



講演時に回覧された資料

【資料提供のお願い】茨城県立歴史館令和9年度特別展「女たちの幕末維新」に向けて

水戸藩諸生党のご子孫・関係者の皆様へ

時下、皆様におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

現在、別添企画書のとおり、幕末維新期の女性たちを題材にした展示会の準備を進めており、その一環として当時の水戸藩における動乱を生き抜いた女性たちに関する資料を広く収集しております。

水戸藩における幕末の争乱は、天狗党・諸生党という両陣営において、多くの尊い命が失われる悲劇を生みました。その渦中で、夫や父、息子を亡くしながらも、必死に家を存続させようと尽力した女性たちの姿は、陣営を問わず共通するところではなかったかと考えております。

しかしながら、明治の世を迎え、天狗党側の女性たちが戦死した家族の葬儀を執り行い、名誉回復と顕彰に努めることができた一方で、諸生党側の女性たちは、過酷な境遇の中で語りたことさえ語れず、沈黙を守り続けなければならなかった年月があったのではないかと拝察いたしております。

本展示では、これまで語られる機会の少なかった諸生党の女性たちの歩みを、天狗党側の女性たちの資料と共に見つめ直したいと考えております。それは、一方的な視点ではなく、双方の女性たちが等しく抱えていた部分と明暗を分けた部分を明らかにすることで、多角的な視点から水戸藩幕末史を再構築する試みでもあります。

つきましては、皆様のお手元に大切に保管されている資料や、家系内で語り継がれている記憶について、ぜひ情報をお寄せいただきたくお願い申し上げます。

1 募集する資料の例

- ・書簡・日記・覚書：当時の暮らしや家族への思いが綴られたもの。
- ・遺品・身の回り品：女性が身につけていた衣類、調度品、守り刀など。
女性が大切に保管していた亡くなった家族の遺品など。
- ・肖像・写真：ご先祖にあたる女性の姿を伝えるもの。
- ・伝承・逸話：家系内で語り継がれている、女性たちの苦労や活躍に関するお話。

2 ご協力の方法

お手元に資料がある、あるいは心当たりがあるという方は、下記連絡先までお知らせいただけますと幸いです。資料の扱いにつきましては、所有者様の意向を最優先し、厳重に管理・保護することをお約束いたします。

茨城県立歴史館史料学芸部学芸課 首席研究員 長谷川 良子
TEL 029(225)4425 / FAX 029(228)4277

※本会のホームページのURLです
ぜひご覧ください

<http://www.onkouhi.site/>



★編集後記 先日、水戸市から、これまで本会をご担当いただいていた歴史文化財課の藤井様が、4月より廣松様に代わられるとのご連絡をいただきました。藤井様、ありがとうございました。廣松様、よろしくお願いいたします。

この話を伺った後の4月下旬、視聴していたテレビ番組の中で「力士がちゃんこ鍋を食べるようになった理由は？」との質問に対し、「(常陸山が大人気となり、)出羽ノ海部屋に入門者が殺到したから」(大勢の入門者に栄養面も考え効率よく食事を提供できることから広まった)と解説する藤井様の姿が、突然大画面で放映され、驚きました。

それとともに、水戸市が令和6年に常陸山生誕150年記念の展示を市立博物館で企画されたこと、また本会も同年の水戸藩国事殉難者慰霊式において、市村眞一先生から、「画聖・横山大観と角聖・常陸山の親は諸生派」とご講演いただいたことも思い出されました。(樹)



知恩第38号
発行日
発行所
発行人
作成

2026年(令和8年)5月2日
水戸殉難者恩光碑保存会
大森信明
事務局 編集委員会